

イプシロンロケット6号機の打上げ失敗の原因究明結果について

令和5年5月19日

文部科学省

イプシロンロケット6号機対策本部

昨年10月12日のイプシロンロケット6号機の打上げ結果を受け、文部科学大臣の指示に基づき、同日、対策本部が設置され、以降、原因究明及び必要な対策検討を進めてきました。

本日、JAXAの行う原因調査等を専門的見地から独立した目で調査審議してきた文部科学省の宇宙開発利用部会 調査・安全小委員会において、原因究明に係る報告書がとりまとめられ、打上げ失敗の直接要因は第2段ガスジェットエンジン（RCS）のダイヤフラムシール部からの推進薬の漏洩であったこと、背後要因としてフライト実績品に対する確認不足があったことが確認されるとともに、今後の再発防止策が策定されました。

文部科学省としては、本原因究明結果に基づく再発防止策を真摯に受けとめるとともに、JAXAが万全を期して実効性ある取組を進めるよう、フォローアップを実施してまいります。

また、イプシロンSロケットは、必要な対策を施した上で、2024年度の実証機打上げを目指すこととなります。文部科学省は、JAXAとともに、引き続き、宇宙開発利用の推進に全力で取り組んでまいります。

なお、イプシロンロケット6号機の原因究明中、H3ロケット試験機1号機の打上げ失敗があったことは誠に残念であり、重く受け止めています。今後、H3ロケット試験機1号機対策本部において、両基幹ロケットの打上げ失敗に共通するような背後要因がないかといった観点も勘案しながら、引き続き原因究明作業を進めてまいります。

ここまでの原因究明に当たり、小委員会の専門家の方々と、数多くのイプシロンロケット関係者の皆様の御協力・御尽力に対し、感謝の意を表します。